

重度身体障害者のテレワーク（在宅就労）普及に向けた課題等の調査研究～就労支援事業所の事例から～

社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場
〒125-0042 東京都葛飾区金町 2-8-20

助成事業の概要

通信技術（IT）の急速な発展や、国が進める「働き方改革実現」等の施策により「在宅勤務」「テレワーク」といったワークスタイルが浸透しつつあるなか、これらのスタイルは移動困難な重度障害のある人にとっても職域拡大の追い風として注目されている。東京都葛飾福祉工場（以下、当工場）は 2013 年に、就労支援系の障害福祉サービス事業所としては初となる在宅勤務制度（就労継続支援 A 型事業の在宅利用）を導入し、今年度で 4 年目を迎えた。この間、在宅就労を希望する人や関係機関からの反響も大きく、あわせてこの先の課題等も整理されつつあることから、5 年目以降を見据え、これまでの軌跡をまとめるとともに、全国の支援機関の動向やネットワーク化の動きなども調査し、さらに重度障害のある人の在宅就労の歴史と制度の変遷とも絡めながら、事例研究のひとつの成果をまとめていくのが本事業の概要である。

事業の成果

前年度において「日社済 平成 27 年度社会福祉助成事業（集合研修）」による研修（セミナー）を開催することができ、その中で当工場の IT を活用した在宅就労の具体的な仕事内容、運営の仕組み、後押しする制度や法律などに関するディスカッションの機会を得ることができたが、研修参加者との情報・意見交換のなかから、在宅就労を希望する人や関係者等、より多くの人にこうした

取組の拡がりを期待する声が多かったことが印象に残った。こうした声を受け、今年度は「調査研究」という形で、まずは在宅就労者からのヒアリングを重ね、一堂に会して当該テーマについて議論しあい、あるいは昨今の制度変遷等の知識を共有するため、専門家（弁護士）を招き、講義や質疑応答する場なども設けた（6/16、東京都内）。その後、全国の在宅就労支援機関のネットワーク化の動きがあることを受け、その設立準備会に赴き関係者から話を聞いたほか（3/4、香川県内）、各地の支援機関の取組を知るために、同日開催のフォーラム等に参加するなど等により、情報収集を重ねた。

他にも、特別支援学校における IT 教育の普及や、障害者就業・生活支援センターにおける在宅就労支援の動き、さらには当工場とおなじ就労支援事業所において「高工賃を生み出すための職域」として、IT を用いた業務・作業が注目されていること等について、調査の過程でうかがい知ることができたため、これらの取り組みも報告書にまとめた。

成果における課題としては、こうした多方面の状況や、前述の支援団体のネットワーク化などの広範な動きについては情報収集・把握ができたものの、本事業のテーマである「就労支援事業所の事例から」という視点が多少ぼやけてしまった感が否めない。在宅就労支援活動が広がりを見せていくことについて注視していくことはもちろん、当工場あるいは当法人が永年担ってきた活動や事業と、こうしたネットワーク化とのかかわりという視点を見直すことも必要であると感じた。

■ 成果の広報・公表

成果報告として当事業所の Web サイトに掲載するほか、そのソースとなった情報等も可能な限り公開する。当事業所の広報媒体などにも掲載し、在宅就労という働き方の現状についてさらに関心が高まっていくよう取り組んでいく。また、調査研究の過程で、西日本新聞社の取材を受け、本研究のテーマにも合致する在宅就労の現状と課題について大きく取り上げられたほか（平成 28 年 6 月 2 日記事「IT 使い『在宅』多様に」）、行政機関の視察や意見交換の機会を得るなど（9 月 5 日、総務大臣政務官ほか）の成果があったため、これらの内容もあわせて広報した。

■ 今後の展開

前年度、今年度と続けてこの助成事業を活用させていただき、当工場の在宅就労における取組や、変わらぬスローガン「働くカタチは、ひとつじゃない」の浸透にも大きな効果があったことから、これからも障害のある人たちの在宅就労の可能性を確固としたものにするために、さまざまな活動を積極的に進めていく計画である。今回の課題であった、当工場のような就労支援事業所における在宅就労事例について、最新動向も踏まえながら、セミナーなどを通じて再度継続的に取り組んでいきたいと考える。